

基本施策評価シート

基本施策最終評価
B

基本施策通し番号 28
 基本施策 定住の促進
 構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	定住情報の提供とサポート体制の強化	B
施策2	定住促進対策	B
施策3	空き家の利活用の促進	B

成果指標

指標	内容	令和2年度 目標	令和2年度末 実績	単位	令和2年度の成果の検証
定住受け入れ件数	平成20年度以降にIJU(移住)サポートチームが支援し、大野市外から大野市に定住した累積件数	64	111	件	移住希望者への細かなサポートや空き家情報バンクによる空き家情報の提供などが実を結び、令和2年度の定住受入件数は13件となった。既に目標数値を達成している。
定住のための住宅取得等助成件数	定住のための住宅取得及びリフォームに対する助成の累積件数	350	385	件	令和2年度の助成件数は11件で、定住の促進に寄与した。目標数値を達成している。
空き家情報バンク制度成約件数	空き家情報バンクの契約成立累積件数	20	38	件	移住定住支援サイトで情報を発信したことで、新規登録件数は7件、成約件数は5件となった。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現 状	・人口減少と少子化・高齢化が進展する中、空き家の増加、農林業などの後継者不足や地域コミュニティの維持が困難になるなどの問題が生じている一方、都市圏でのスローライフへの関心や田舎暮らし志向の高まりを受け、全国的に地方移住に向けた取り組みが行われている。
課 題	・大野市の認知度と魅力度を向上させ、都市圏からの移住促進と、進学や就職のために移住した若者の本市での定住を促進する取り組み、また、優良な空き家は、中古住宅として効果的な利活用を促す必要がある。

社会情勢・市民ニーズの変化

- ・人口減少や少子化・高齢化が一層進み、商業や農林などの後継者不足や地域コミュニティの衰退、空き地や空き家の増加などの問題が加速化している。
- ・空き地や空き家に関する法令や条例が整備されたことで、行政に対する空き地や空き家対策への期待が高まっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染リスクが小さい地方への回帰が全国に強まっている。

現在の「現状」と「課題」

現 状	・移住希望者の相談窓口として、越前おおのIJUサポートチームを結成し、移住相談や市の支援制度などの情報を提供しながら定住受入につなげている。 ・空き家所有者に対し、空き家情報バンク制度の周知を進めているが、登録物件数は先進地に比較し、もの足りない。
課 題	・地方回帰への関心が高まっており、都市部などの移住希望者への効果的な情報提供が必要である。 ・空き家物件を求める移住希望者からの問い合わせが多く、優良な空き家の効果的な活用を促す必要がある。

基本施策の「成果」

成 果	・移住定住応援サイト「オオノグラシ」の閲覧数が約43,000件あり、前年度と比較すると1.4倍増であった。サイト公開後、過去一番の閲覧数であった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、本市を来訪しての田舎暮らし体験者は減ったが、電話やオンライン相談に応じた結果、移住相談件数は増加した。 ・定住のための住宅取得及びリフォームに対する助成の累計件数が令和2年度の目標数値に達し、定住の促進に寄与した。
-----	---

改善点

- ・本市に興味や関心を持ってもらうための取り組みを強化し、交流人口を増やし、移住希望者へ本市の魅力を伝える。
- ・中京圏へのPRを強化するため、連携中枢都市圏の他市町と連携し、中京圏で開催される移住フェアへ出展する。
- ・道の駅「越前おおの 荒島の郷」の開駅や中部縦貫自動車道路の整備促進により、中京圏へ本市の情報発信を効果的に行い、認知度と魅力度を高めることで、将来的な移住者の獲得につなげることを目指す。